

倒産集計**信用交換所京都本社****11年年間（1～12月）繊維倒産****件数・負債額ともに減少、小規模倒産目立つ****▼全国▲ 発生件数=509件 負債額=1591億9500万円**

2011年（平成23年）の全国繊維業者の倒産（負債100万円以上＝整理・内整理含む）は509件発生し、前年比21件（4.0%）減少した。

負債額は1591億9500万円で、前年比556億8500万円（25.9%）減少した。負債額100億円以上の大型倒産は、㈱中三（青森市、百貨店、負債額114億7400万円）のみ（10年は3件）。同50億円以上100億円未満の倒産は、㈱アイ・ピー・ジー・アイ（東京都渋谷区、婦人カジュアルウェア製造・小売、同75億9700万円）、㈱ララ・プラン（東京都渋谷区、婦人カジュアルウェアほか製造・小売、同69億8900万円）の2件（同2件）にとどまった。また、同10億円以上50億円未満は、大浦㈱（宮崎県都城市、百貨店、同45億8000万円）、㈱サム&カンパニー（埼玉県川口市、紳士カジュアルウェア小売、同44億3600万円）、坂入商事㈱（茨城県結城市、呉服・和装品小売、同41億300万円）など26件（同37件）となった。

倒産件数は4年連続で減少しており、09年以降500件台で推移している。負債額についても6年ぶりに2000億円を割り込むなど倒産の小口化が認められる。

11年1、2月は政府・日銀とも景気判断について上方修正や「企業活動に改善がみられる」と発表。他方、上場企業の第3四半期業績も過去最高益がみられるなど総じて景気回復の兆しがうかがわれた。しかし、3月11日に発生した東日本大震災以降、自粛ムードなどと相まって個人消費が低迷。夏場以降、消費マインドにやや改善の傾向がみられたものの、ヨーロッパでの債務危機や急激な円高の進行で輸出企業を中心に各企業の業績が悪化。さらに電気・ガス料金の値上げ、増税議論の本格化、タイの洪水など、年間を通して取り巻く環境の厳しさが目立った1年でもあった。

繊維業界は東日本大震災に伴う特需がうかがわれたほか、「スーパークールビズ」や節電意識の高まりもあって、夏物商材を中心に堅調な動きが見られた。しかし、原材料の高騰や中国での生産コストの上昇など川上（メーカー）を取り巻く環境は一段と厳しさを増しているほか、デフレ市況による過度の価格競争や消費不振を背景に川中（流通）、川下（小売）での売上低迷も続いているなど、業況の悪化は否めない。

各種セーフティネットの効果や金融機関の支援等で企業倒産は小康状態にあるが、業績自体の改善がみられないことやデリバティブ取引による損失拡大などの懸念材料を考慮すれば、今後の動向を注意深く見守る必要がある。

業種別では「小売商」が167件で全体の32.8%を占めて最も多く、次いで「紳士・婦人・子供・被服製造卸」135件（26.5%）、「ニット製品・洋品雑貨製造卸」70件（13.8%）となり、この3業種で全体の73.1%を占めた。以下は、「その他」39件、「織物製造」26件、「寝具・インテリア製品製造卸」22件、「織物卸」20件、「染色整理・特殊加工」14件、「呉服・和装製品製造卸」11件、「紡績・撚糸製造」3件、「糸及び原料商」「商社及び貿易商」各1件だった。

原因別では、「業績ギリ貧」が400件（78.6%）とトップで、次いで「業況急変」61件、「資金力薄弱」19件などとなった。

▼京都▲ 発生件数=16件（前年19件） 負債額=25億8100万円（前年30億1500万円）**▼滋賀▲ 発生件数=3件（前年2件） 負債額=3億7200万円（前年1億8000万円）**